

◎注意事項をよくお読み下さい

りそな 経済フラッシュ

(米国2020年1-3月期GDP速報)

2020/4/30

りそなホールディングス 市場企画部

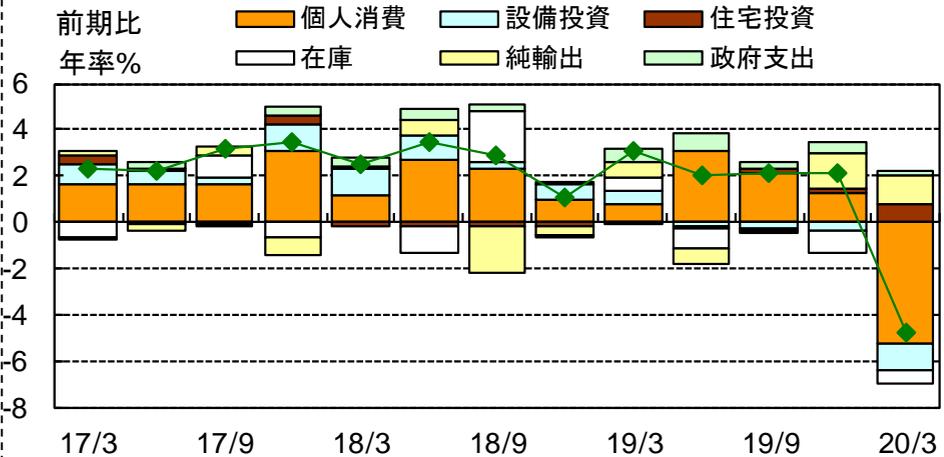


〇概況

- ◆ 1-3月期実質GDP成長率は前期比年率▲4.8%
- ◆ 個人消費、設備投資を中心に内需が大きく落ち込む
- ◆ 新型コロナウイルスによる制限措置の影響が顕著に出る4-6月期には大幅な悪化が予想される

- ✓ 2020年1-3月期実質GDP成長率は前期比年率▲4.8%となった（市場予想▲4.0%、10-12月期+2.1%）。コアPCE価格指数は前期比年率+1.3%と10-12月期から伸びは横ばいとなった。
- ✓ 個人消費が前期比年率▲7.6%（市場予想▲3.6%、10-12月期+1.8%）と予想を大きく下回る結果となった。耐久財（10-12月期+2.8%→1-3月期▲16.1%）、サービス（+2.4%→▲10.2%）が3月半ば以降の新型コロナウイルスによる影響で大きく落ち込んだ一方で、買いだめ需要もあった非耐久財（▲0.6%→+6.9%）は増加し、消費の落ち込みを緩和させた。
- ✓ 設備投資は前期比年率▲8.6%（10-12月期▲2.4%）と4四半期連続のマイナスでマイナス幅を大きく拡大させた。一方、住宅投資が前期比年率+21.0%（10-12月期+6.5%）と大幅な伸び。低金利環境が続く中で住宅投資は堅調な状況が続き、1-2月の暖冬傾向も伸びを加速させた。
- ✓ 輸出は前期比年率▲8.7%（10-12月期+2.1%）と大きく減少したものの、輸入は▲15.3%（同▲8.4%）と大きく落ち込み、外需はプラス寄与となった。
- ✓ 政府支出は前期比年率+0.7%（10-12月期+2.5%）で5四半期連続のプラス。
- ✓ 個人消費・設備投資が大きく落ち込み、また外需のプラス寄与も輸入の弱さが要因で、国内経済の弱さを示すものである。
- ✓ 米国の新型コロナウイルスによる影響は3月半ば以降に本格化しており、今回のマイナスは期末2-3週間の急激な落ち込みを示すものである。影響の長期化も懸念されるなかで、4-6月期はさらなる悪化が予想され、前期比年率▲30%を超える大幅なマイナス成長も視野に入る。

【実質GDP成長率（季節調整済、年率）】



出所：Bloomberg

【実質GDP成長率寄与度（季節調整済、年率）】

	2019Q1	2019Q2	2019Q3	2019Q4	2020Q1
実質GDP	+3.1	+2.0	+2.1	+2.1	▲4.8
個人消費	+0.8	+3.0	+2.1	+1.2	▲5.3
設備投資	+0.6	▲0.1	▲0.3	▲0.3	▲1.2
構築物	+0.1	▲0.4	▲0.3	▲0.2	▲0.3
機器	+0.0	+0.1	▲0.2	▲0.3	▲0.9
知的財産	+0.5	+0.2	+0.2	+0.1	+0.0
住宅投資	▲0.0	▲0.1	+0.2	+0.2	+0.7
在庫	+0.5	▲0.9	▲0.0	▲1.0	▲0.5
外需	+0.7	▲0.7	▲0.1	+1.5	+1.3
輸出	+0.5	▲0.7	+0.1	+0.2	▲1.0
輸入	+0.2	+0.0	▲0.3	+1.3	+2.3
政府支出	+0.5	+0.8	+0.3	+0.4	+0.1

【出所】米商務省、Haver Analytics

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。